

# 第 1 回 県立病院跡地利活用懇談会

## 議事要旨

日時	平成 29 年 8 月 28 日 (月) 13:15～15:30
場所	ホテルニューパレス 2 階 あおい
出席者	委員 6 名 (全員出席) オブザーバー 2 名 (全員出席) 会津若松市長 会津若松市 企画政策部 及び 企画調整課 4 名 株式会社日本経済研究所 社会インフラ本部 2 名
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・県立病院跡地利活用懇談会設置要綱・委員等名簿</li> <li>・資料 1 懇談会の目的と進め方について</li> <li>・資料 2 市政だより 8 月号記事</li> <li>・資料 3 第 7 次総合計画での位置づけについて</li> <li>・資料 4 これまでの市民提案について</li> <li>・資料 5 旧会津総合病院敷地 (住宅地図)</li> <li>・資料 6 旧会津総合病院跡地の取得意向について (回答)</li> <li>・資料 7 県立病院跡地に係る県関係スケジュール</li> </ul>

### I. 出席者

#### 1. 委員

No.	氏名	所属団体等	備考
1	いとおか あやこ 市岡 綾子	学校法人日本大学工学部建築学科 専任講師	建築・まちづくり
2	きげ よしかづ 佐瀬 良一	会津若松市スポーツ推進委員会 理事長	スポーツ・健康
3	たけうち きみ 竹内 樹美	福島県建築士会会津支部女性委員会 委員長	建築・保存・デザイン
4	てらうち しゅうや 寺内 秀也	会津若松商工会議所 専務理事	商業・金融
5	まつうら くみ 松浦 久美	Like 会津実行委員会	まちづくり・協働
6	やまぐち ともえ 山口 巴	特定非営利活動法人 Lotus 理事長	福祉・子育て

## 2. オブザーバー

No.	氏名	所属団体等	備考
1	小林 真司 <small>こばやし しんじ</small>	会津若松市国際交流協会 事務局長	国際交流・インバウンド
2	小荒井 俊行 <small>こあらい としゆき</small>	株式会社エフエム会津 取締役	コミュニケーション・情報

## II. 懇談会

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

- ・ 会津若松市では、平成 29 年 3 月に、県立病院跡地の取得を希望する旨の回答を県に対して出している。なお、取得に係る費用の予算要求等はこれからである。
- ・ 8 月 28 日現在、当該跡地の利活用案について市民アンケートを実施中である。
- ・ 総合計画では、まちの賑わいと活力の拠点となるような整備を位置付けている。

### 3. 委員等紹介

50 音順で委員等紹介

### 4. 座長及び副座長選出

座長に市岡委員、副座長に寺内委員を決定。

### 5. 議 事

#### (1) 懇談会の目的と進め方について

事務局から「資料 1」「資料 2」により説明

#### (2) 第 7 次総合計画での位置づけについて

事務局から「資料 3」により説明

#### (3) これまでの市民提案について

##### ① 要望及び陳情等

##### ② 第 7 次総合計画策定時における市民提案等

事務局から「資料 4」により説明

#### (委員)

新庁舎の移転場所の方向性については整理されているとの解釈でよいか。

#### (事務局)

総合庁舎整備の方向性については、平成 28 年 9 月の議会へ議案を提出し、12 月議会で議決された「第 7 次総合計画」に位置付けられている。

⇒総合庁舎案については、懇談会では検討外とすることで合意。

(委員)

この懇談会で議論する土地の範囲は。

(事務局)

県の意向により 4 つの土地を一括で購入することを予定しているが、約 25,000 m<sup>2</sup>ある一団の土地の活用について検討いただきたい。

(委員)

県立病院跡地の活用について、行政側で期限等の目処を設けているのか。設けていない場合には、ただ漠然と進めていくことになりはしないか。

(事務局)

第 7 次総合計画の計画期間は平成 29 年度から平成 38 年度までとしており、県立病院跡地は計画期間中に検討するとしているが、事業実施についての期限は現段階では未定である。

懇談会においては、広大な敷地（約 25,000 m<sup>2</sup>）について、設置がふさわしい「核となる施設」は何か、どのような事業手法で進めていくことが望ましいかについて、一定の方向性を出して頂き、提言としてまとめたい。

(オブザーバー)

第 7 次総合計画策定過程で開催した委員会やワークショップについて、それぞれの参加人数は。

(事務局)

各検討会の参加人数と開催回数は以下の通りである。

あいづ創生市民会議 42 名×9 回

庁舎検討懇談会 16 名×4 回

高校生ワークショップ 25 名

広く市民を対象とした提言の受付や、無作為抽出の意識調査等についてはこれ以前に行っており、その上で、上記のような対面形式でより深い議論をする場を設けた、ということになる。

(委員)

美術館や武道館については、「県営」での設置を要望している。「県営」の可能性はないのか。

(事務局)

県営武道館の設置要望は県内の各自治体から寄せられているが、県としては、あづま総合運動公園の改修による有効活用の検討を進めているなど、県営武道館整備の考えは表明されていない。

(4)その他

委員・オブザーバーの意見・感想発表

(委員)

本日の委員会で市民の皆様がどうしているかという意見の一部を聞いた。これらの意見を踏まえるとともに、スポーツと何かを掛け合わせた複合施設等ができれば良いと考えている。

(委員)

県立病院跡地前は鶴ヶ城への行程で必ず通る道であり、観光拠点としての機能と、同時に、会津全域から人が集まり、市民も毎日利用するような機能が共存する拠点となるような施設となることが望ましい。

(委員)

武道館については市営等の可能性はまだ残っているものと考えている。もともと、福島県営会津武道館建設促進期成会の要望は、武道館として全国レベルの大会の開催とともに、地域に求められる多様な機能を有する多機能型施設の整備であり、交流人口の増加が期待できる多機能型コンベンション施設のようなものが必要と考えている。土地の広さを活かし、その中に児童が活用できる機能等を組み込むのも良いだろう。

更に、災害時に2～3日分の食料を供給できる、防災拠点・備蓄庫としての機能も必要である。

(委員)

様々な方が利用でき、会津地域の元気明るさを全国に発信し、まちも人も元気になるような施設が望ましい。

(委員)

当該跡地は、おそらく今後出てくることのない広大な敷地であり、大きな期待を寄せている。

「数多くのイベントで大いに盛り上がり、仕事もたくさんある会津若松市に、住みたくても人気が高すぎて住めない」という声が聞こえてくるような将来像を描いており、この懇談会にも積極的に参加していきたい。

(オブザーバー)

利活用案については、稼働率が高く、毎日集えるものを、と考えている。

(オブザーバー)

市内の在留外国人は30数か国、約720名となっており、彼らにも支持されるまちになれば良い。外国人が快適に暮らせると感じれば、観光の推奨を積極的に発信してくれるだろう。日本人や外国人の会員両方の意見を反映していきたい。

(委員)

まず、第一に、会津若松市は観光地という印象が強くあり、敢えて、こうした外側からの目線も大事にし、この場で共有したい。

第二に、冬場の過ごし方は課題であり、新たな魅力を構築するチャンスでもある。冬場に外から人が訪れるようなまちにできれば、夏の来訪も更に増加するだろう。冬期間の交流人口増の対応についても検討したい。

最後に、防災拠点の必要性についても検討するべきと考えている。大規模な防災拠点の重要性は東日本大震災において再認識されている。

各委員の意見、市民の意見をどのようにまとめ上げて提言とするか、議論していきたい。

6. 現地視察

マイクロバスで移動し、現地を視察。

事務局から「資料 5」「資料 6」「資料 7」により説明。

現場管理者より現在の工事の進捗状況等をうかがう。

7. 閉会

現地視察終了後、閉会。

以上